

## 総務文教常任委員会におけるいじめ発生原因まとめ

- ①自分を肯定するために、自分より弱い立場のものをつくって攻撃する。
- ②家庭からくるストレス、愛情・会話の不足、家庭環境。
- ③子どもに余裕がない。ストレスの発散の場・時間がない。
- ④異年齢との交流が少ない。
- ⑤人間の本能として他人に勝ちたい・優位になりたい心。それを理性でコントロールできない。
- ⑥先生・子ども・保護者3者間の信頼関係とコミュニケーション不足。
- ⑦仲間外れになりたくない。
- ⑧先生が忙しい。先生の資質や経験不足。
- ⑨体験が少なく、狭い世界観。子どもが孤立化。
- ⑩ネット社会の弊害

# 総務文教常任委員会「いじめをゼロにする・減らすために何が必要か」 についての具体的な解決策の意見集約

## ①スローガン等作り、啓発・周知する

- ・ 1日10分子どもと対話（コミュニケーション）をしよう！
- ・ 会話をするという事が大切！
- ・ いじめの定義の周知
- ・ 条約、法律、条例等を理解する

## ②全ての人が相談できる窓口を設置

- ※全ての人：いじめられている本人、心ならずもいじている人、市民、事業者、目撃した人等
- ・ 優しく分かり易い名称
- ・ 匿名でもOK
- ・ 専門職員の配置
- ・ 例：大津市いじめ対策推進室(毎週いじめ対策会議などを開催している)
- ・ 24時間電話ダイヤル
- ・ 逃げる、離れる勇気(転校等)も大切
- ・ 人的配置
- ・ 子どもと親の相談員の充実
- ・ いじめ通報アプリ

## ③早期発見し、すぐ対応。家庭・学校・地域との連携を充実

- ・ いじめ通報アプリ
- ・ QUテスト(心理テスト)の実施
- ・ 学校に目安箱の設置(第三者が見る)
- ・ 取手市版子どもSOSレターの設置
- ・ 子どもと親の相談員のような専門の相談員を各校に1名配置。(養護教諭も重要)
- ・ 学校だけではなく、地域の窓口にもなる。(子どもたちに注意をしたことや目撃したことをフィードバックする)
- ・ 先生の相談にもものる。(秘密厳守で)
- ・ いじめを早くを見つけるための資質アップの研修
- ・ 親子のコミュニケーションアップ(家庭教育学級の中身の見直し、父の日・母の日・親子の日などを活用した啓発活動)

## ④教育現場での道徳教育の充実を学校でしっかりと実施して頂きたい。

- ・ いのちの教育の充実
- ・ 道徳が教科化。アクティブラーニングをしっかりと行って欲しい。
- ・ 表現力を高めるために本を読みましよう。
- ・ 子ども・親・学年毎にいじめ問題に対する授業(過去の事例、克服した事例など)

#### **⑤教育委員会等、関係機関との連携強化**

- ・教育委員会をより実効性のある委員会にするために、構成員メンバーの検討をする。  
※取手市教育委員会では、4名教育委員会関係。1名保護者(幼稚園園長)。  
他市では、医者や心理学の先生が入っていたり、女性が3割以上を占めていたりする。
- ・子どもの居場所づくり。
- ・学校・家庭・地域の連携の充実。いじめダメ！を伝えていく。

#### **⑥学校全体の共通理解を深め、学校全体でスピード感を持っていじめに対応していく。**

- ・先生のレベルアップを目指し、研修の実施。

#### **⑦子どもたちのストレスの発散の場づくり**

- ・社会教育の場づくり
- ・案内を積極的に行い、参加してもらう

#### **⑧子どもたちが自主的にクラス全員でとことん対話できる環境を整えて行く。**

- ・子どものサインを教師が受けとめられる体制。